

湘南 ER ER フェロープログラム

— ER を「武器」にするための時間 —

「生後 1 か月の発熱」を、一人で診療できますか。

「妊婦の腹痛」に、自信を持って初期対応できますか。

「前方パッキングでも止まらない鼻出血」の止血はできますか。

「肩関節脱臼」の整復はどうでしょうか。

重症患者の対応はできる。

ICU 管理も、外傷初療も、CPA 対応も経験してきた。

それでもふと、

「自分は、本当に“ER 医”としてやっていけるのだろうか」

そう感じたことはないでしょうか。

湘南 ER の ER フェロープログラムは、そんな救急医のためのプログラムです。

1. ER フェローとは

本プログラムは、救急科専攻医プログラムを修了した医師を対象とした、ER 医としての次のステージに進むための実践型フェローシップです。

対象として想定しているのは、主に次の 2 つのタイプの救急医です。

- 重症対応を中心とした一般的な救命型プログラムを修了したが、ER 診療全体にはまだ不安がある人
- ER 型プログラムを修了し、さらに ER 診療の専門性を深めたい人

期間は 1～3 年。

画一的なカリキュラムではなく、それぞれの背景・志向・課題に応じて設計するオーダーメイド型です。

ここで目指すのは、単なる臨床力の向上ではありません。

ER 医としての「軸」と「専門性」を、自ら設計できる状態になること。

そのために、臨床・教育・運営・地域活動・メディカルコントロールなどを横断的に経験しながら、自分自身の“武器”を育てていきます。

2. 湘南 ER が育てる ER 医

湘南 ER が育てたいのは、「重症対応だけ」に強い医師ではありません。

もちろん、重症患者対応は ER 医としての重要な土台です。

そのうえで湘南 ER が目指すのは、

0 歳から 100 歳まで。軽症から重症まで。

身体・精神・社会的問題まで含めて受け止められる救急 Generalist です。

小児も、妊産婦も、精神科救急も、マイナーエマージェンシーも診る。

「これは専門外」と線を引くのではなく、“この患者を、いま自分たちがどう支えるか”を考え続ける。

それが湘南 ER の ER 診療です。

そしてその上で、

- 臨床
- 教育
- マネジメント
- 地域・社会
- プレホスピタル
- 情報発信

それぞれに関わりながら、自分の強みを持った ER 医へと成長していきます。

3. 臨床 — ER の中心で診る

能力育成の中心は、あくまで ER 診療です。

フェローは、ER の中核として、

- 救急車対応
- Walk-in 対応
- 重症～軽症診療

すべてを担います。

湘南 ER は、日本有数の症例数を誇るハイボリューム ER です。

日々、多様な患者背景、多様な主訴、多様な重症度の患者が ER を受診します。

特徴的なのは、マイナーエマージェンシーも含めて、救急医が幅広く診療する点です。

眼科、耳鼻科、皮膚科、精神科、泌尿器科、産婦人科、小児科。

ER で遭遇する問題に対して、「どう専門科へ振るか」だけではなく、「ER 医としてどう向き合うか」を学びます。

たとえば、

- 生後 1 か月の発熱
- 妊婦の腹痛
- 鼻出血の止血
- 関節脱臼整復
- 精神科救急の初期対応

こうした症例に対して、「自分は一人に対応できる」と言い切れるでしょうか。

ER 診療を続けていく中で、多くの救急医がぶつかる壁があります。

湘南 ER フェローは、その壁を乗り越えるためのプログラムです。

4. SV(Supervisor) — ER を動かす

湘南 ER フェローの大きな特徴が、SV(Supervisor)経験です。

一定の評価を経て、フェローは SV としてフロアマネジメントを担います。

SV の役割は、単なる“上級医”ではありません。

湘南 ER では、日常的に多数傷病者対応に近い状況が発生します。
限られた人的リソース、限られたベッド、絶え間なく搬送される患者。

その中で SV は、

- フロア全体の意思決定
- 人的リソース配分
- 診療優先順位の調整
- トラブルシューティング
- 教育の実装

を同時並行で行います。

対象は医師だけではありません。

看護師、救急救命士、事務スタッフなど、ER 全体をマネジメントします。

これは単に「患者を診る」能力ではありません。

“ER というシステムそのものを安全に動かす力”です。

この経験は、一般的な専攻医研修では得がたい、湘南 ER フェローの大きな特徴の一つです。

5. 教育 — 学ぶ側から、育てる側へ

フェローは、教育の担い手でもあります。

- 初期研修医指導
- 専攻医教育
- bedside teaching
- デブリーフィング
- シミュレーション企画
- カンファレンス運営

毎週のカンファレンスでは、診療を“経験”で終わらせず、再現可能な学びへ変換していきます。

教えることは、自分の診療を磨くこと。
教育とは、ER全体の質を引き上げる営みです。

また、湘南ERでは「教育を受ける」だけでなく、「教育を設計・運営する」経験も積むことができます。

6. 運営・地域・社会との接点

湘南ERフェローは、院内だけに閉じません。

- ER運営
- 班活動
- 業務改善
- メディカルコントロール
- 市民啓発
- 医療講演

など、ERの外にも関わっていきます。

三浦半島地区メディカルコントロール協議会では、症例検証や事後検証にも参加します。

また、学校現場や保護者向け講演など、市民教育活動にも参加可能です。
希望者には、スライド作成やプレゼンテーションについても組織としてサポートします。

ER 医の役割は、病院の中だけでは完結しません。

社会が必要とする医療を、社会へ届ける。

それもまた、ER 医の重要な役割だと湘南 ER は考えています。

7. プログラム概要

■ 期間

・1～3 年(個別設計)

■ 他科／他院ローテート

・最大 3 か月／年

例:

- 眼科
- 産婦人科
- 精神科
- ICU
- 地域医療
など

専攻医時代に十分経験できなかった領域を補完しながら、自分の強みを育てます。

■ 主な活動領域

臨床

- 救急車＋Walk-in 対応
- 重症～軽症診療
- マイナーエマージェンシー
- SVフロアマネジメント

教育

- 初期研修医／専攻医指導
- カンファレンス運営
- シミュレーション企画

地域・プレホスピタル

- メディカルコントロール
- 症例検証
- 地域講演

研究・発信

- 臨床研究
- 学会発表
- 論文執筆
- 教育コンテンツ作成

運営

- ER 診療班
- 広報班
- 業務改善
- システム構築

8. 働き方

- 完全 3 交代制
- オンコールなし
- 年間休日 110 日＋有給休暇
- 給与：専門医として処遇

フェロー初年度は、シニアレベルの臨床を担いながら実践の中で力を伸ばしていく設計です。

また、カンファレンスや教育活動についても、単なる自主学習ではなく、勤務として学びを保証する文化があります。

ER で長く働き続けるためには、持続可能性が必要です。

湘南 ER は、診療だけでなく、「ER 医として長く成長し続けられる環境」そのものを大切にしています。

9. このプログラムに向いている人

- ER 診療をもう一段深めたい
- マイナー領域への苦手意識を克服したい
- 自分の強みをつくりたい
- 教育や運営にも関わりたい
- ER をキャリアの軸にしたい
- このままでいいのか、少し迷っている

そんな人に向いているプログラムです。

一方で、早期から特定領域へ特化したキャリアを強く志向する場合には、他の選択肢が適していることもあります。

10. 最後に

ER 診療は、ただ続けるだけでは深まりません。

自分の弱さに向き合い、診療範囲を広げ、現場を動かし、社会とつながる。その経験の積み重ねが、ER 診療を「ただできること」から、自分の“武器”へ変えていきます。

ER で生きていくか迷っているなら、一度、本気で ER に向き合ってみてください。その先に、自分だけの ER 医の形が見えてくるはずですよ。